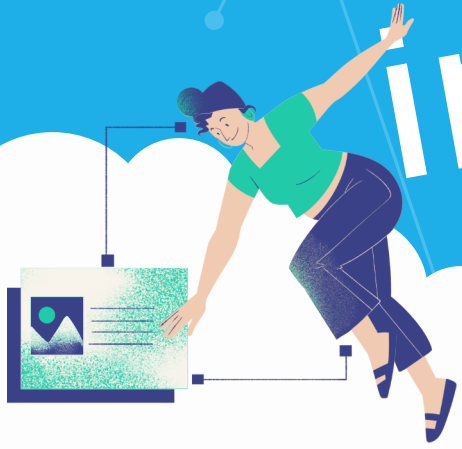


Change Difference into Value

「違い」を価値に変える
デジタルクリエイター集団









特定非営利活動法人

Wisa

デジタルユースワーク　多文化共生　キャリア教育開発

特定非営利活動法人

Wisa

違いを
価値に変える

私たち一人ひとりの“違い”があるからこそ、
すべての人生に、独自の意味があります。
Wisaは“違い”を価値に変え、社会をつなぐ
新しい時代のデジタル・クリエイター集団です。







この 冊子を通じて

“あなた”と対話したいこと

この冊子では、
人々の「孤立化」という社会問題に対して
Wisaが多様な活動を組み合わせ
解決を目指していることをお伝えします。

デジタルを活用して＜違い＞を活かす若者たちが
どのような価値を主体的に生み出しているのか……
その実践の現在地と
これからの展望を記しています。

目次

P.3-4 Wisaとは
全ては、オンラインゲーム上で、ひきこもりの若者達が集まったことからスタート。これまでの歩みと全体像、団体概要、ミッションを、簡単な年表とともにご紹介します。

P.5-10 デジタルユースワーク
Wisaの活動の核となる取り組みです。ひきこもり・不登校に関する「支援をしない支援」や家族支援に加え、Wisaが世間に先駆けて取り組んできた、Web制作・システム開発といった「デジタル就業」についてお伝えします。

P.11-16 国際協働・多文化共生
国境を超えて、日本の若者が海外とつながるプロジェクト。留学やインターン、海外調査研究支援、日本国内に住む外国ルーツの家族のサポートなど、様々な形で展開している国際協働・多文化共生の取り組みをご紹介します。

P.17-18 キャリア・リテラシー教育
自分軸の「ものさし」をつくる。 SoulSpark、P4Yなど、次世代を担う若者のキャリア観と、これからの社会を創るためのリテラシーを育むプログラムをご紹介します。

P.19-22 これからのWisaと、あなたとご一緒したいこと
Wisaの多様な実践を一つの理念で束ね、「調査・研究・発信」によって進化させていく「アクションリサーチセンター」(Action Research Center、ARC)と、2030年までにWisaが目指す姿。――そして、あなたとご一緒したい具体的なアクションプランをお伝えします。

Mission — 私たちが取り組む社会課題

社会とのつながりを失う“孤立”とそのリスク

約4%
の小中学生が不登校になっています

● 不登校(小・中学生)

年間30日以上欠席の児童生徒：約35万人は過去最多・全体の約3.9%に(文部科学省, 2024)。令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等に関する追跡調査によると、不登校の児童が20歳になってから非正規＋無職となる割合は約51.3%（33.2%＋18.1%）となり（文科省, 2014)、将来の経済的な困窮のリスクも。

146万人
(約50人に1人)がひきこもり状態になっています

● ひきこもり(15〜64歳)

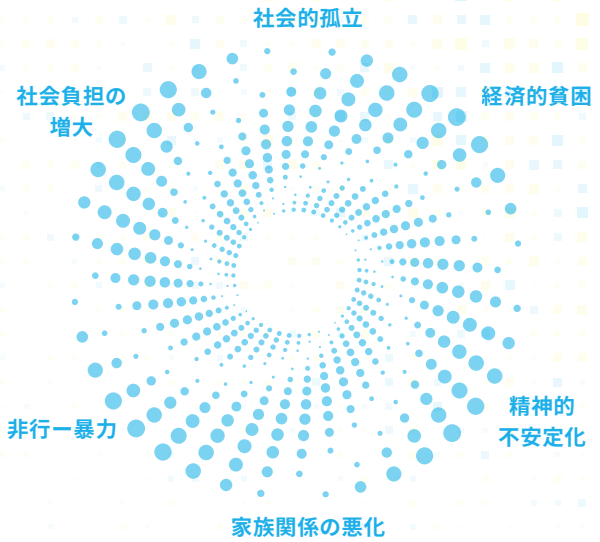
全国推計：約146万人（約50人に1人が社会的孤立状態）に昇るといわれています。社会的孤立は死亡リスクを約1.3倍高め、喫煙と同程度の健康被害があります（Holt-Lunstad, 2015)。また受刑者の7割が犯罪時に無職であり、殺人事件の被害者関係は親族44.7%、面識なし14.7%。家庭内暴力（DV）と併せ、個人と家庭の孤立は深刻な人災リスクを高めます。

20.5%
の外国ルーツの子どもたちの世帯が一人親家庭です

● 外国ルーツの子ども/言葉のヤングケアラー

日本に暮らす外国ルーツの子どもは全国の児童の数%を占め、ひとり親世帯割合が日本国籍児童の約2倍というデータが報告されています（例：外国ルーツ児童のひとり親割合20.5% vs 日本籍10.2%)。言語習得や教育環境の不均衡が、就学や社会参加の大きな障壁になっています。子ども全体のなかでも深刻な不利が生じています（OECD国の中でも高い水準)。

成人期の孤立と貧困に伴う個人・社会的リスク (負の)循環をどのように克服するかという課題



History—オンラインゲームの片隅から、デジタル社会を支える”最前線”へ



2009-2011

Wisaのはじまり
ひきこもりの若者がオンライン
ゲームで集まり、組織になる

2009：
インターネットゲームで集まった不登校・ひきこもり当事者・家族12名が、自助グループ**「ソル・ライフ・ネット」**を設立。

2010：
大阪府の認証を受け、NPO法人化。
ソーシャルカンパニー（社会的企業）として地域事業者のホームページ制作や動画制作など**「情報化まちづくり」**事業をスタート。



2012-2016

デジタル就労・就業モデルの
確立と社会的評価

2012：
これまで「支援される側」と考えられてきたひきこもりの若者がICTを活用して「支援する側」へ転換するイノベーションが高い評価を獲得。日本テレワーク協会より第12回**「テレワーク推進賞」**を受賞。

2013：
大阪府委託事業**「レイブル起動塾」**開始。
IT人材育成の独自教育カリキュラムを開発。

2016：
総務省**「テレワーク先駆者百選」**に選出。
在宅就労支援のモデルが国の先進事例として認定。日本で初めて全国規模でひきこもり当事者・自助グループを繋ぐ。



2017-2019

国際協働・多文化共生への展開
人材育成の本格化

2017：
活動フィールドを世界へ。カンボジア・パーナサストラ大学にて国際シンポジウム**「自助への対話」**開催。世界８か国参加（トヨタ財団研究助成事業）。

2018：
バングラデシュにて**「C-BED」**（コミュニティ主導型ビジネス開発）普及プロジェクトを開始及びICTトレーニングセンター寄贈。ラオス・ビエンチャン市にコワーキングスペースを設置。

2019：
多文化共生ソーシャルデザインプロジェクト**「パラソル」**結成。大阪市港区にて**「学校に行かないパターン」**プロジェクト開始。



2020-現在

コロナ禍を経て、
アクションリサーチへと深化

2020：
コロナ禍による活動完全オンライン化と共に、三菱財団×中央共同募金会の助成を受け**「オンライン・コミュニティ・カレッジ」**をスタート。

2021：
アカデミアとの連携を開始し、京都大学大学院総合生存学館との海外サービスラーニングプログラム**「WASAVI」(現、LATP)**を開発。
ラオス・ルアンパバーン県と協働して**「ラオスの民話研究所」**を設立。

2022-2023：
外国ルーツのヤングケアラー支援を中心に、調査研究と実践を伴うアクションリサーチを開始。多角的な支援を展開　（大阪府共同募金会助成事業）。

Digital Youth Work

デジタル ユースワーク

オンライン／デジタル技術を 活用した若者支援

EU(ヨーロッパ諸国)を中心に注目されている、デジタルを通じたユースワークです。
デジタルデバイスを活用した若者による ボランティア、創作や探求活動、 助け合いの活動(ピアサポート)といった 取組みがあります。

オンラインから社会参加のきっかけを―― 安心してデジタル就業できる仕組みづくり

『情報化まちづくり×研究』を社会的／文化的処方に
-若者の“デジタルスキル”で地域の“社会基盤”を支える



現在の活動

若者へのアプローチ：“役割” - “関係” - “自信”を取り戻すきっかけ創り

● デジタルボランティア

キャリアをテーマとしたグループワークへの参加を通じて、自分の好き(want)・得意(can)・貢献できる(need)の重なりを見つけ、自分自身でボランティアプロジェクトの計画を作ります。

● デジタルユースワーカー養成講座

ストレス対策や生活・学習習慣について、
専門家による講義とグループワークに取り組み、
必要な知識をインプットします。

● デジタル就業プログラム(テレワーク型)

地域のIT・DX促進である「情報化まちづくり」を目指し、Web制作・動画編集・翻訳などの実務体験を提供。単なる訓練ではなく、実際の案件を通じて「プロの仕事」を経験し、社会参加のためのスキルを習得します。

● 社会福祉協議会(福島区)と連携した家族会

同じ悩みを持つ保護者が経験や情報を共有する自助グループ。専門家講座や地域連携も行い、家族を孤立から守ります。
*年間参加者 延べ 150名 程度

メンバーの声

中学不登校から高卒認定ー大学受験の成功
……そして、IT企業への就職

Wisaと関わったきっかけは？

2012年、中学1年の頃にイジメが原因で学校に行けなくなりました。そんなとき、母がインターネットでWisaを見つけて、相談をしたことが参加のきっかけです。当時はオンラインで定期的な**ピアカウンセリング**が行われていました。最初は怖すぎてただ他の人の発言を聞いているだけでした。少しずつテキストチャットで自分の思いを発信しました。気づいたら仲間に入れてもらってた感じです。

Wisaとの思い出はありますか？

不登校になったときは親から責められたり、近所の友達と思ってた子からも不登校であることを気遣われたりすごくつらい時期がありました。そのとき部屋に戻ってWisaのグループチャット(当時はSkype)で相談して、励まされるという繰り返しでした。2012年にジョンさんという埼玉県の方と一緒にアニメを年末に見ながら実況していたとき、あるシーンで感動してふたりで一緒に泣いたことが一番の思い出です。**そのとき、人生で初めて誰かと一緒に生きてる気がしました。**



ハチさん-2010年にWisaに参加(当時２１歳)。**好きだったイラストを駆使して挿絵やデザインを経験**。制作した企業ロゴデザイン「月のうさぎ」(生活介護支援事業,大阪市西区)は現在も使用されています。



ジュンさん(写真右)-2011年にWisaに参加その後、多文化共生推進プロジェクトのマネージャーを経験。後にWEB制作の学習会にも参加。2019年に就職し民間団体で活躍中！

他人を助けることで自分が助かる……

デジタル・ユースワークの魅力は、自由にやりたいこと・好きなことをきっかけに社会とつながる機会を作ってくれることです。私の場合は人づきあいが苦手だったけど、インターネットが好きでした。15年以上も不登校からひきこもり状態になっていました。ひきこもっているときに地道にパソコンに向かってできる仕事を探していました。Wisaでは、日本語教育支援の教材作りで奨励金がもらえる仕事がもらえました。それに取り組んだことがきっかけで外出したり、色々な活動に参加するようになると、いつのまにか「仲間」ができました。仲間ができると、いつのまにか笑顔になっている自分がいました。笑っていると、元気が出てきて新しいことにチャレンジしたくなりました。そして気づけばWEB制作を学び始めました。最初は実績を作るためにボランティアをしていると、**いつのまにか「お仕事」として報酬をもらい、報酬が少しずつ大きくなると自立できるようになりました。**「支援をしない支援」をしているWisa……他にはないユニークなNPOだと思います。

あなたの会社の情報発信をフルサポート！
デジタルコンテンツ制作でコラボしませんか？



情報化まちづくり事業：
若者の“デジタルスキル”が、地域の”社会基盤”を支える

情報化まちづくり事業とは

Wisaの展開する**「情報化まちづくり事業」**とは、Web制作やシステム開発を通じて、地域の企業・自治体・福祉事業者のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する事業です。その担い手となるのは、デジタル・ユースワーク（DYW）によって育成された若者たち。 在宅やひきこもりといった環境にある若者が、市場価値のあるスキルを習得し、プロフェッショナルとして実案件に参画します。

ここでは、「訓練」のための擬似的な課題は行いません。納期、品質、責任を伴う「本物の仕事」を通じて彼ら／彼女らも成長し、同時に、地域社会を支える新たな力となります。

“公共・福祉”と“ビジネス”の両輪で支える

私たちのクライアントは、一般的な民間企業にとどまりません。
予算や人材が不足しがちな「公共・福祉」のDXを、若者の力で強力にサポートしています。

- **パブリック／ソーシャルセクター**
  社会福祉法人、NPO、教育機関、行政など。「想いはあるが、発信力が弱い」、「ITに詳しい職員がいない」という課題に対し、現場の状況・事情に合わせたWebサイト制作や動画発信、業務効率化システムを提供します。

- **民間企業**
  中小企業、個人事業主など。確かな技術力と柔軟な対応で、ビジネスの成長に貢献する高品質なクリエイティブを提供します。

仕事創りで若者を応援する
「倫理的調達＝エシカルソーシング」をご存知ですか？

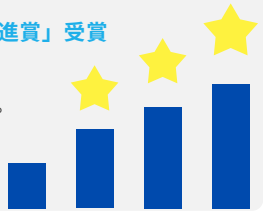
「発注」が相互の「支援」になり、社会が変わる循環モデル



これまでの実績

- **総務省「テレワーク先駆者百選」選出**
- **日本テレワーク協会「テレワーク推進賞」受賞**

※多様な働き方を活用した
地域活性化モデルとして評価を受けています。



ウェブ制作の現場から



制作現場の様子

オフラインやオンライン・画面越しでのクライアントとのやりとりから、チームでの制作まで。
Wisaに関わる若者は、それぞれの得意を生かしながらプロジェクトに関わっています。

【協力企業】（敬称略）
株式会社クレフ、株式会社クレコ・ラボ、合同会社わくわくデザイン、
株式会社ドットコンサルティング、HRKデザイン株式会社、株式会社 SEVEN BRIDGE
有限会社ジーニアス教育総合研究所、ハッピーコンピューター株式会社　他……



スタッフの声

最初は「自分が役に立てるとは思えない」と話していた若者が、プロジェクトの後半には、クライアントに対して改善提案を自分からできるようになることを目指しています。オンライン上でも、役割と責任を持てる経験が、次の一歩につながります。

制作実績

Web制作

社会福祉法人　大阪市西区社会福祉協議会様

制作区分　リニューアル
制作期間　約 6ヶ月
制作担当　企画・構成・デザイン・WordPress構築
使用技術　HTML / CSS / PHP
制作規模　68ページ
制作費用　1,280,000 円（1 年分保守管理費用込）
使用CMS　WordPress
サポート　マニュアル制作 操作説明会開催



大阪市内７区子ども・子育てプラザ様　中央区・福島区・旭区・城東区・住之江区・西区・大正区



制作区分　共通テンプレート方式
制作期間　約 7ヶ月
制作担当　企画・構成・デザイン・WordPress構築
使用技術　HTML / CSS / PHP
制作規模　7サイト同時制作
制作費用　2,700,000 円（7地区分一括受注）
使用CMS　WordPress
サポート　動画マニュアル制作 操作説明会開催

社会福祉法人 大阪府共同募金会様



制作期間　約 7ヶ月
制作費用　1,670,000 円

特定非営利活動法人もなか 紙再生工房様



制作期間　約 8ヶ月
制作費用　260,000 円

動画制作

NPO法人もなか会-紙再生工房様　治具開発物語

動画種別　事業紹介PR
制作期間　約4週間
動画長さ　約1分30秒
撮影体制　1日／2名体制
制作目的　活動内容の周知 認知向上
制作担当　企画・撮影・編集・字幕制作
納品形態　アップロード納品
制作費用　55,000円



有限会社マイスタージャパン様　筆ペン墨絵アート

動画種別　新商品紹介PR
制作期間　約2週間
動画長さ　2分34秒
撮影体制　1日／1名体制
制作目的　商品体験の説明
制作担当　企画・撮影・編集・字幕制作
納品形態　アップロード納品
制作費用　35,000円



大阪府共同募金会様　助成事業活動紹介

動画種別　活動紹介PR
制作期間　約4週間
動画長さ　5分52秒
撮影体制　1日／3名体制
制作目的　仕組みと思いを発信
制作担当　企画・撮影・編集・字幕制作
納品形態　データ納品
制作費用　無料(交通費のみ)



その他、システム／アプリ開発、GAS(Googleアプリケーション)、パンフレット／ブックレット制作等…多数

クライアントの声

株式会社 演尽　松本 克之さん



初めはWisaは全員が引きこもり経験者ということで、世間に揉まれていない真っ白いカンバスのような印象でした。これからどうなるだろう、という不安と期待がありましたが、思い切ってホームページのお仕事の依頼をしたのが出会いのきっかけです。
その後もずっと応援をしてきて、一時期は事務所を共にした時期もありました。だんだん引きこもりという立場から抜け出て「お、社会に一歩進んだな」という感じです。仕事をもった若者の顔は「かっこいい」顔に変化する、そんな若者の成長の手本を見ているようでした。



2012.3.8 第12回 テレワーク推進賞 受賞の様子



８００件以上のDX化

情報化まちづくり事業を17年継続しています

2012年以降、年平均76件のWEB制作案件の受注を通じて、関西（大阪）を中心とした福祉事業者・小規模事業者のDX化、情報化を通じたまちづくりに貢献してきました。

CLEF

株式会社 クレフより

引きこもりや社会から一度脱落してしまった人を積極的に仕事に向きあわせているという方針は、本当に素晴らしいなと思います。また、担当の井川さんや他スタッフ様ともお話をさせていただきました。元引きこもりというイメージで暗い人かと思っていましたが（偏見なのかもしれませんが……）とても明るく気さくな方ばかりで本当にお仕事なども進めやすいです。
コーディングはしっかりとやっていただき、スピードもとても早いので大変助かっております。
また、難しいことへも挑戦していただけるとのことで仕事の意欲の高さも感じます。

Global Partnership

国際協働
多文化共生

国境を越えて、環境を変える-
次世代の“自己変容”をサポート

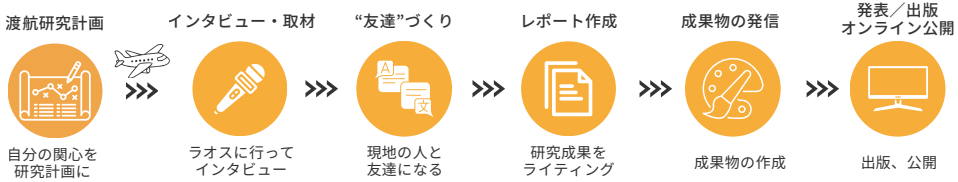
日本社会で生きる私たちの
生活習慣や価値観には、
誰しも無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)
が潜んでいる可能性があります。
多様な文化に触れることで自らの“偏見”を知り、
自己変容を促していきます。

「無意識の偏見(アンコンシャスバイアス)」を克服し、自分を変えるチカラを育てる

日本の「日常」とはまったく異なる「非‐日常」の生活体験ができるラオスで調査研究(リサーチ)ボランティアに取り組むプロジェクトが、**「LATP(Laos Academic Tour Program)」**です。プロジェクトを通じて、多様性を受容し、他者を尊重できる倫理的な(エシカル)リーダーシップの育成に取り組んでいます。また、不登校などの生きづらさを抱えている若者が、異なる考え方や価値観をもつ人との「共生体験」をきっかけに「自己変容」を遂げることを目指します。

調査・研究(リサーチ)ボランティアを通じて、自己変容を遂げる

プロジェクトの流れ









役に立つものは
すぐに役に立たなくなる

デジタル社会で情報は
リアルタイムですぐに手に入る。
でも、その情報に惑わされないためには
ゆっくり自分で考える時間が必要だ。

写真: 2024年7月23日　LATP ラオス渡航プログラム





ラオスで「自立」することは
「自立しない」こと

便利だけど人とのつながりを失っている日本の「幸せ」か、貧しくても自然のリズムと家族を大切にするラオスの「幸せ」か。どちらも知らないと、どちらも知ることはできない。

写真:2023年11月11日少数民族文化保存/雇用創造プロジェクト

LATP(ラオス・アカデミックツアー)運営からのメッセージ





筑波大学3年生

高野真由香さん

interviewee

こんにちは。現在LATPの運営を担当しています、筑波大学3年の高野真由香です。
私自身、初めは2024年3月に参加者としてLATPに加わり、Wisaのアシストのもとラオスへ渡航しました。
それまでの私は途上国をただの貧しい国であると思い込み、「ラオスの人々を支援したい」という思いでLATPに参加しました。しかし実際に渡航をすると、そこにはお金がなくても幸せに暮らす現地の人々がたくさんいて、私は自分がいかに凝り固まった価値観をもっていたのかと反省しました。
LATPでは、渡航する日本人の学生が、ラオスの人々を“助けてあげる対象”として見ることをやめ、よりフラットに、“同世代の友達”としてかかわることで、自分の価値観をアップデートすることを目標としています。また、現地ラオスの人々にとっても、日本人の学びを手助けしたり、友達として関わる中で、主体的に自国のことを英語で説明する、といった語学力向上の機会になったり、日本という他文化に触れることができます。さらに、関わってくれているラオス人にWisaから奨励金を払うことで、現地での雇用の創出も行っています。
LATPは単なる“貧しい国”への支援ではなく、ラオス人と日本人が対等な立場で関わり互いの成長を促すことができる、唯一無二のプログラムです。



「社会的に弱い人たちを主役にする」
- まるで映画やドラマを作る仕事をしているような気がしています

Wisaは設立当初から、不登校やひきこもりの若者が海外体験をしたり、ノマドワーカーとして海外ワーケーションをする拠点に集団移住する計画をもっていました。2018年以降、いよいよラオスへ拠点を創り始めた際、現在の調査研究プロジェクトはどのように始まったのでしょうか……当時のリーダーだったオンチャンに話を聞いてみました。

私(オンチャン)の家族がビエンチャン(首都)近郊に所有する90平米の3階建ての建物をWisaが借り上げて、近所の高校生・大学生に無料で開放し始めました。そこにはパソコンが4台あって英語の本もありました。私はその利用者の一人で、友達も誘いました。どんどん人が集まってきて、にぎやかになりました。ある日、Wisaのスタッフが起業を目指すビジネスプランを作るグループワーク(現在のNext.SIPの前身)をしてくれました。多くの生活困窮状態にある少数民族の若者が、集まって参加できました。私たちには彼女らをどう支援すべきかがわからなかったのですが、インターネットで話したWisaの日本人の高校生から「こども食堂」という日本の取り組みを教えてもらいました。そこで、Wisaからの寄付で少数民族の子たちに昼ごはんと夜ごはんを週に3回提供するプロジェクトをスタートしました。英語教育もしようとしたのですが、ヤンチャな子たちで勉強は全然してくれませんでした。一方で絵を描いたり、歌を熱唱してる様子をみて、「絵か歌で収益をあげるアイディアは？」と食事中に話し合いをしていました。

少数民族の子どもたちは、昔話や幽霊の話を都会育ちの私よりもたくさん知っていることに気づきました。いつもお化けの落書きをしていたのです。そこで、ラオスの民話を彼女たち自身で調査して文字起こしして絵本にするアイディアが誕生しました。最初、観光局に勤めている父を通じて研究所の設立をビエンチャンで目指しましたが、ビエンチャンでは少数民族の支援は難しいとわかりました。あきらめかけたときに、集まっていた若者の1人がルアンパバーンに帰り、民話研究のプロジェクトを立ち上げるために動き出しました。みんなで厚生労働局のクム族の職員に働きかけてくれたのです。１年後、コロナのロックダウンがスタートしたとき、研究所がルアンパバーン県文化情報局から認可されました。

私はその後、大学院に進学して現在は外務省への就職を目指しています。現在もWisaで学んだ人を支援するとき、本人たちの価値観や強みを活かして自然な活力を支える考え方を忘れていません。



写真:2018年当時 -
ラオス国立大学法政学部・オンチャン
(現地通訳スタッフ)



写真：2023年12月ールアンパバーン県の
民話保存の取り組みはNHKで報道されました。

ラオスの民話保存×雇用創出プロジェクト(2020 - 2024)

その後、ラオス国立大学経営管理大学院で講師 - 研究員をすることになったWisa理事の横山が副所長、ルアンパバーン県厚生労働局のシポンさんが所長となって、「ラオスの文化と民話研究センター」(Research Center of Lao Culture and folklore)を設立。少数民族の子どもたちのうち、一人親家庭や生活困窮家庭の子どもたちに民話の調査研究で雇用を創出しながらその伝統と文化を保存する**FaY(Folklore and Youth)**プロジェクトを開始。2025年度までの4年間で、800万規模の雇用創出を達成しました。2025年度からは、ＬＡＴＰとして日本人の渡航と現地フィールド調査を支援し、民話研究については日本の高校と協働したデジタルユースワークとして生まれ変わって現在(2026年)に至ります。

多文化共生 - 日本語学習支援事業

大阪市では、市民の約6.8%・18万9,281人が外国人住民です（2024年12月末）。また、大阪市教育委員会の推計によると、日本以外にルーツのある小中学生は約9,000人（令和2年）。特に外国ルーツ世帯では、言語の壁・不安定な就労により支援の情報が届きにくく、就学援助や学習支援へのアクセス格差が生じています。親子の進路についての対話に困難もあり、「言葉のヤングケアラー」となる子どもたちへの支援が必要です。



「みまもる」支援から「つなげる」支援へ

● 無料の日本語教育支援

多くの外国ルーツの子どもたちもしくはその保護者は、日本語能力や学校の勉強、受験に困難を抱えています。Wisaではデジタルユースワークとして、高校生がボランティアの中心となってオンラインで日本語教育に取り組み、子どもたちと家庭の元気な様子を「みまもる」支援を行っています。





● 多職種・多機関の連携へ　「地域資源マップ」の出版と活用

家庭内暴力（DV）や職場でのトラブル、大きな負債や不利な契約、特に司法や行政が関与すべき深刻な問題が外国人家庭に生じることがあります。Wisaでは、大阪市の頼れる相談先が一覧できる「地域資源マップ」の作成と、それを使った情報提供による「つなげる」支援を行っています。

新型コロナウイルス感染下における
外国にルーツがある人々への支援活動応援助成
三菱財団 × 中央共同募金会







●日本語学習をきっかけとしたケア

2023年度は外国にルーツのある子ども・ヤングケアラー28 名、上記の保護者 39 名の計67名、大阪市内に住む21家庭 に対して訪問型の日本語学習支援に取り組みました。
わからない宿題や受験勉強をしながら、日々の悩みを解決するアイディアも交換してきました。また専門的な相談が必要なケースには、公共機関・相談窓口へ「つなげる支援」を実施しました。





開発した“ジャーナリング”を実践

2023年度には、日本語作文教育のためにジャーナリング教材を独自に開発。 外国ルーツの家庭が、キャリアの実現に向けた目標‐習慣管理ができることを目指しました。



2023年度大阪府共同募金会‐地域の子どものための助成事業

●外国ルーツの家庭／ピアサポート

オンライン相談窓口の設置



2023年度(4月1日―2月28日)、大阪市内に在住するベトナム人、タイ人を対象としたオンライン相談窓口を設置しました。その反響は予想を上回り、相談窓口のフォロワーはベトナム人1,054名/大阪市全体の5%に至り、タイ人は1112名・大阪府全体約2,500人の約40%に！
オンライン相談窓口への相談件数は、186件(104家庭)に至りました。



写真:多文化料理教室‐2019年開催の様子(2019.2.21)

Career & Literacy

キャリア リテラシー教育

正解よりも、自分の“ものさし”をつくる

日本の教育課程には、子ども‐若者のためのキャリア教育がほとんど無く、独特の就職活動文化があります。
日本の公教育におけるキャリア教育の不足を補うために、Wisaではキャリア教育の開発と普及に取り組んでいます。

人生のOSをアップデートする、キャリア・リテラシー教育

変化の激しい時代において、特定の職業に就くことだけがゴールではありません。「将来何になりたいか」という問いのみではなく、「どのような人生を送りたいか」という問いを持つことを大切にしています。

Wisaのキャリア教育は、偏差値や年収といった「既存の社会のものさし」ではなく、価値観や美意識といった「自分だけのものさし」をつくるプロセスです。揺るぎない自分の軸を持つことこそが、あらゆる成長の土台となります。



SoulSpark——
キャリアの「情熱」を研究する

Wisaに所属するメンバーの企画からスタートした学生団体**「SoulSpark(ソウルスパーク)」（プロジェクト名も同じ）**は、**「キャリア × パッション」**をテーマに、高校生・大学生が主体となって活動しています。日本では早期離職率が非常に高い一方で、現在の中学校や高校にはキャリアコンサルタントやカウンセラーが十分に配置されていません。そこでSoulSparkは、キャリア形成や自己分析の重要性を社会全体に広く伝えていくことを目指し、インフォーマルな学びの場からキャリア教育を提供しています。



P4Y (Philosophy for Youth)

「P4Y」（Philosophy for Youth - 若者のための哲学)は、自分自身と向き合い、キャリアを見つけるためのオンライン対話型プログラムです。「自分に合った進路って？」「本当にやりたい仕事って？」そんな問いを持つ学生・若者が、自己分析ワークショップと対話を通じて、言葉にできなかった自分の情熱・価値観・才能を見つけます。

Wisaの教育ポリシー　自立のための「3つのリテラシー」

Wisaでは、これからの社会を生き抜くために必要な力を、以下の3つのリテラシーとして定義し、すべてのプログラムの基盤に据えています。

01 主権者リテラシー (Citizenship)

「自分を知る」

自己分析を通じて自分への理解を深め、困ったときや悩んだときに解決を図るための「言語化能力」と「意思決定能力」。
他人の評価に流されず、「自分の人生の主役（主権者）」としての自覚を持ち、自らを管理・統率する力を身につける。



02 起業家リテラシー (Entrepreneurship)

「仕事を創る」

自分で意思決定した目標に向けた計画を立て、他者に伝えて共感を得て、価値化していく実践的な能力。
会社に依存するのではなく、フリーランスや起業家のような精神（マインドセット）で、社会に対して能動的に価値を提供できる人材へ。



03 研究者リテラシー (Researchership)

「世界を知る」

世界や他者への理解と共感を深める研究能力。ものごとを安易にジャッジせず、倫理的、批判的な思考力を持って社会の矛盾や課題を捉える力。
異文化理解や調査研究を通じて視野を広げ、複眼的な視点と批判的思考力を身につける。



これからのWisa ― 実践を、社会を変える「知」へ

「現場」には、まだ名前のない「知恵」が眠っている。

Action Research Centerは、Wisaが15年以上にわたり蓄積してきた実践知を「アクション・リサーチ」の枠組みで再定義し、社会へ還元するための新たな市民研究の取り組みです。

Wisaにおける、不登校や外国ルーツの若者たちとの伴走、国際協働といった多様な実践は、単なる支援に留まらず、彼ら／彼女らがデジタルの力とともに壁を越えるために、メンバーと共に試行錯誤を繰り返してきたプロセスそのものです。

Action Research Center アクションリサーチ・センター

私たちは、この「現場の問題を解決するために行動を起こす」というこれまでの歩みこそが、本質的に「アクション・リサーチ」であったと捉えています。アクションリサーチセンターの取り組みでは、これまで暗黙知となっていた実践のプロセスを、客観的な記録・発信を通じて社会の共有知へと昇華させます。

さらに、この手法を学術や行政との協働プロジェクトにも展開します。様々なプロジェクトにおいて、外部からの観察だけに留まるのではなく、現場の人々と知識を共有し、能動的に関わる「協働者」として参画します。そして、現場の関係性や知のあり方を変革し、関わる人々のエンパワーメントを図る――一連のプロセスを通じて、実践と研究の両輪を担うことを目指します。

● Action(実践)

日々のデジタルユースワーク、国際協働・多文化共生、キャリア・リテラシー教育などの現場で生まれる実践。ここで生まれる「小さな違和感」や「成功体験」、「試行錯誤」が全ての起点です。

● Dialogue & Reflection（対話・省察）

現場で起きたことを、メンバー・スタッフなど、ステークホルダーが対話によって振り返ります。「なぜうまくいったのか？」、「なにが壁だったのか？」など、言語化を通じて分析・省察していきます。

● Research & Editing（調査・編集）

対話・省察から得られた知見を、文献調査による裏付けや、インタビュー調査やデータ分析などを通じて体系化します。学術的な理論とも照らし合わせ、客観的な「理論」や、応用可能なモデルへと昇華させます。

● Publication（発信・出版・社会実装）

調査レポートや記事、論文などとして可視化し、社会へ発信します（アカデミックなパブリケーション機能）。また、一連のリサーチで生まれた知見を現場へフィードバックし、新たなアクションリサーチの種としていきます。

「アクション・リサーチとは」



“調査を通して現場の問題を解決するべく、研究者が行動（アクション）を起こす方法”
“現場でものごとを見たり聞いたりするだけではなく、現場の人々と知識を交換・共有し、能動的に行動する。そのことを通して、現場における関係性や知のあり方を変革したり、現場の人々のエンパワーメントを図ったりすることを志向する”

「現代エスノグラフィー　新しいフィールドワークの理論と実践」より引用

Manifest

「違い」が標準になる未来へ。
Wisaが描く、次のソーシャル・イノベーション



2025年から2030年にかけて、Wisaは以下のキーワードを軸に、次なる社会変革に挑みます。

ポストDXとしてのAX（アナログ戦略）

Wisaは、あらゆるものがデジタル化されていくDXの先に、人間の「身体」やオフラインでの「体験」が持つ意味が改めて見直される、そんな未来を予想しています。ラオス渡航プログラム――LATPのように、デジタルと対立するのではなく調和するような、「アナログの価値」を意識した生活体験など、多様なグラデーションを持った過程の価値や体験、プロセスの中にある価値がより強く存在感を増していくのではないか、と想像しています。**デジタル空間の持つ不特定多数とのつながりや関係性よりも、地域に身近な信頼関係のあるオフラインの少数コミュニティが再び尊重され、つながりの量(情報)よりも質(人間-自然)が大切にされる**――そんな未来を見据えたプロジェクト設計を心掛けます。

エシカルソーシング／コンシューミング(倫理的調達／消費)の普及

エシカルソーシング／コンシューミング（倫理的調達／消費）とは、企業や人々が商品やサービスを手に入れる際に、単に価格や効率だけを重視するのではなく、「誰の、どのような働きや経験の上に、その商品(財)／サービスが成り立っているのか」といった倫理的（エシカル）な側面についても考慮に入れることで、社会的な責任を引き受ける調達／消費のあり方です。EUでは、調達や委託の段階から、人権尊重、社会的包摂、若者や脆弱な立場にある人々のエンパワメントに配慮することが重要な価値として共有されてきました。**「お金の使い方‐消費によって、社会的価値（social value）を生み出す取引」**を、分野を超えて日本社会に拡げていきます。

市民研究‐研究者精神(リサーチャーシップ)の育成

AIの普及によって、従来の簡単なウェブ検索では見つかりにくかった情報が、誰でも気軽に、整理されたカタチで手に入りやすくなりました。結果、今までは一般の生活から少し縁遠かった社会福祉に関連する様々な情報についても、誰でも気軽にアクセスでき、公の場で客観的な議論に取り組むことができる環境が整いつつあります。
これからの時代では、情報を手に入れるだけでなく、その分析と考察がますます求められるようになります。こうした社会の流れに応えるためには、「経験から紡ぎだす実践知」、「人間を理解するための教養知」、「客観的なデータ分析ができる科学知」の調和した、「総合知」が必要です。
調査研究を通じた多様な成果を社会に発信することで、**AI時代に、社会から信頼できる情報源として参照されるような、「社会をよりよくするための総合知」**のあり方を提示していきます。

あなたの参加が、次の「違い」を価値に変える
-Wisaと関わる３つの方法

Wisaの活動は若者たちの力だけでなく、ビジョンを共有する多くのパートナーに支えられて成り立っています。
パートナーシップのあり方は多様です。資金的な支援(寄付)だけでなく、情報化まちづくり・地域福祉DXに関わる仕事の発注など――あなたの持つリソースとWisaの実践を掛け合わせることで、新しいイノベーションが生まれます。立場ごとに想定される連携のかたちを、いくつかご紹介します。

仕事を依頼する
DX - 有償プロジェクト



- ウェブサイト／アプリ制作
- システム開発／会計ソフト等の
- 市民開発(GAS - Googleアプリ)
- 動画撮影ー制作・編集
- インスタグラム運用

【協力企業(五音順)】HRKデザイン株式会社 株式会社クレフ 株式会社クレコ・ラボ 株式会社 SEVEN BRIDGE 株式会社ドットコンサルティング 有限会社ジーニアス教育総合研究所 ハッピーコンピューター株式会社 合同会社わくわくデザイン他...

EXAMPLE
地域に飛び出す公務員を応援する首長連合



公務員の地域活動を応援する首長連合。各自治体の応援施策調査を実施しているほか、連合加盟首長が一堂に会するサミットを開催。毎年Wisaが、その開催記録をデジタル化しています。

このお仕事は、中高齢の生活困窮にあるご家庭やひきこもりがちな市民の貴重なお仕事・役割創りに貢献しています。



コラボレーションする
無償 - 交流プロジェクト

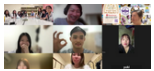


- ラオス民話を活用した国際理解教育
- 不登校・ひきこもりに関する
- 講演 - 啓発やキャリア教育
- 調査 - 研究事業(映像化含む)

【協力実績(五音順)】トヨタ財団 丸紅基金 沖縄尚学高等学校　大阪府赤い羽根共同募金会 京都大学 大手前大学 Green Hopper English 道草の会(群馬県太田市)　NPO法人Unity 一般社団法人天王寺堂ヶ芝学習館　他...

EXAMPLE
沖縄尚学高等学校SDGs部







沖縄尚学高等学校SDGs部とともに、ラオス現地の中高生と協力して民話調査―翻訳し、その内容をパペットシアターとして映像化しました。「民話と若者」(Folklore and Youth)の特設サイトにて、完成したものを公開しています。

ボランティアで貢献する
経験とスキルで参加する



- ボランティア応募は1年間で約300名
- 小中高 - 大学(院)生から社会人(保護者) - 海外からも参加者がいます
- ボランティア証明書 - 推薦書等発行で進路もサポート

activo

Wisaのボランティア情報はActivoで

EXAMPLE
社団法人大阪ボランティア協会





年齢・障害・国籍などを問わず、多様な人が共に参加できるボランティア**「インクルーシブ・ボランティア」**の普及に取り組んでいます。次世代ソーシャルイノベーター育成プログラムなどの教育開発に加えてボランティア情報発信システムKVネット(システム開発)、出版 - 調査研究でも協力をいただいています。

会員としてWisaに参加する・寄付でWisaの活動を応援する

会員・メンバーになって関わる

Wisaに入って活動したい若者やその保護者の方、Wisaに関わる若者とより直接的に長期間交流し、そのプロジェクトと成長を応援したい方にはメンバー(年会員)になることをお勧めします。

- 一般会員　月3,000円　年36,000円
- 法人会員　月6,000円　年72,000円

参加特典

Wisa- Bulletin
Wisaの活動報告を伝えるニュースレターやプロジェクトが出版する作品を、Email もしくはご自宅まで郵送でお届け！

限定イベントへご招待
学生と社会人がフラットに交流、対面ミートアップを含めたネットワーキングイベントへご招待。

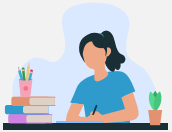
進路相談-ピアメンタリング
ピア・メンタリングでは、Wisaの仲間同士お互いがお互いにアドバイシングをします。他者目線から自分の悩みを解決！

学習支援コースの受講
個別のエントリーシート-小論文-志望理由書などの添削や面接対策などあなたの進路決定をサポートします。

寄付・若者の才能へ投資する

若者が個性と才能、スキルを自らのうちに発見し、自発的に始めるボランティアや起業を応援するための寄付型投資のプラットフォームとして、皆様から理解のある寄付を募っています。

Wisaへの寄付はすべて子ども・若者たちのプロジェクトに要する経費
アイディア(シード:種)の具現化に活用します。


ＤＸ人材を目指す
若者を支援


地域の仕組みを変える
プロジェクト


社会福祉に関する
調査研究

寄付特典

アドバイシング参加
社会人・専門能力のある一定の条件を満たした寄付者は、応援したいプロジェクトへアドバイザーとしてオンライン参加・交流していただけます。

スペシャル・イベント視聴
若者のプロジェクトのアイディア・ピッチや成果報告会などへご招待。寄付の成果を実感いただけます。

ニュースレターの送付
活動成果や支援を受けた若者の様子がわかるニュースレター(ビジュアル・ポートフォリオ)を送付します。

Change
Difference
intoValue

特定非営利活動法人 Wisa
〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町1-7-1 堺筋高橋ビル5階
☎ 06--6777-1141　✉ info@wakamono-isa.com

寄付・入会は
公式HPから

各種
SNSはこちら

赤い羽根共同募金
地域の子どもの福祉のための助成